

■石原純 物理学者、歌人。学士院恩賜賞直後、短歌の弟子と不倫し帝大教授辞任、科学ジャーナリスト先駆者に。

いしはらじゅん

明治14年政変1881= 東京市本郷区で、旧三河国の極小西端藩士出の本郷教会長老石原量の長男に生まれる。母千勢も信者。

新体詩抄・ 1882= 1歳：弟(のちに高名なキリスト教史学者になる)謙が誕生。

岩倉具視没・ 1883= 2歳：父が本郷教会牧師となる。

内閣発足・ 1885= 4歳：妹露が誕生後、母が脊髄炎に罹る。

国民之友始・ 1887= 6歳：本郷区立本郷小学校入学、母が死去、以後祖母しんに面倒を見られ、\_学校では耶蘇といじめられ、

初の対等条約1888= 7歳：尾張国の津島小学校を経て名古屋市協同小学校に転校後、

帝国憲法発布1889= 8歳：本郷小学校に戻るなどして、\_引きこもりがちに育ち、

帝国議会始・ 1890= 9歳：祖母も老衰で死去。

日清戦争始・ 1894=13歳：父が牧師を辞職し教会と無縁になる。卒業し、私立郁文館中学入学。

日清戦争終・ 1895=14歳：父の失職に伴う家計負担軽減のため、退学して\_東京府尋常師範学校を受験するも失敗し、

白馬会・ 1896=15歳：郁文館中学に戻り、学生共同宿舍(自営館)に入る。

子規句歌革新1898=17歳：卒業。\_第一高等学校を受験するも失敗、

Bushidou・ 1899=18歳：郁文館補習科に通学して\_再受験し合格、第一高等学校(理科)入学。

教科書疑獄・ 1902=21歳：卒業し、\_東京帝国大学理科大学理論物理学科入学。新聞(日本)に短歌を投稿して作歌を始め、

日比谷公園・ 1903=22歳：\_馬酔木が創刊されると、同誌に投稿し、伊藤左千夫を訪ねる。

日露戦争始・ 1904=23歳：父が腸チフスに罹り死去、経済的危機、弟妹とともに祖母青木家に居候し、土地家屋売却して脱する。

日露戦争終・ 1905=24歳：歌にのめりこんでいたためか、1年留年するも、特待生となり、

満鉄発足・ 1906=25歳：妹が結婚。卒業し、\_大学院(長岡半太郎研究室)に進む。桑木或雄の紹介で1年間(物理学講義)に執筆し、

韓国反日暴動1907=26歳：生活のため、いくつかの中学を掛け持ちで教え、教科書執筆、親友の姉橋元逸子と結婚。\_相対論を知り、

アヲキ創刊・ 1908=27歳：退学して陸軍砲工学校教授。\*初の著書の弘道館教科書「美しき光波」刊行。創刊の(アララギ)同人となる。

初稿論文かつ日本最初の相対論「運動媒質の光学」発表、以後の論文と合わせ、アインシュタインに送り、

韓国併合・ 1910=29歳：学生の弾道実習のため愛知県伊良湖に滞在。自ら作詞の「ニュートン祭の歌」が田丸卓郎作曲で初演、

大逆事件判決1911=30歳：\_日本初の量子論「光量子の理論」よせて。東北帝国大学理科大学が創設されるやその助教授に任ぜられ、

明治天皇没・ 1912=31歳：\_ヨーロッパ留学に出発、ミュンヘンのゾンマーフェルト、ベルリンのプランク、チューリヒのアインシュ

タインのもとで学び、早くもアインシュタインの日本招聘について本多光太郎総長に意向打診、

大正政変・ 1913=32歳：「運動可秤物体における最小作用の原理について」。\_ロンドンへ渡り、

第一次大戦始1914=33歳：\_パリを経由してベルリンを再び訪れて帰国。東北帝国大学教授となる。

21ヶ条要求・ 1915=34歳：\*歴史に残り頂点となる「重力の相対性理論」「作用量子の普遍的意義」「量子説と水素原子スペクトル」発表、

ロシア革命・ 1917=36歳：この間も熱心に作歌活動を続け、\_大学院に入院していた後輩歌人原阿佐緒を見舞ったことを契機に、

ベル仁条約・ 1919=38歳：\_一連の研究成果をまとめ「相対性原理・万有引力論および量子論の研究」として、帝国学士院から恩賜賞。

やがて恋愛関係となり、互いに悩むうち、

原歌首相暗殺1921=40歳：心身疲労して入院後、\*新聞沙汰になったことから、教授退職となり、(アララギ)も離れ、千葉県保田に原

阿佐緒と住む。石原が辞任したことを知った新興出版社(改造社)の山本実彦や(岩波)の岩波茂雄が支援の行

動を起こし、「アインシュタインと相対性理論」「相対性原理」「エーテルと相対性原理の話」出版、売行き好調だ

ったともあって、著述業に自信を抱いたのか、

水平社結成・ 1922=41歳：\_最初の歌集「露日」。山本実彦の快挙で、アインシュタインが来日した際には博士に同行して各地における

講演に通訳の労をとり、翌々年にかけて「アインシュタイン全集(第4巻)」刊行。

関東大震災・ 1923=42歳：「アインシュタイン教授講演録」「物理学の基礎的諸問題第1輯」「人間相愛」。\_正式に退職し、以後、一流の科学

ジャーナリストとして活躍して行く。短歌でも不定形の自由律を提唱し、いわゆる新短歌運動を始める。

護憲三派圧勝1924=43歳：「現代の自然科学」。\_宮沢賢治がまさに相対論を物語化した傑作「銀河鉄道の夜」を起稿したのはこの年で、

石原の解説に触発されたと思われる。

治安維持法・ 1925=44歳：「永遠への理想」「恋愛価値論」「科学の根本問題」。

円本時代始・ 1926=45歳：「科学と人生」「物理学の基礎的諸問題第2輯」。

共産党事件・ 1928=47歳：「子供の実験室」。\_原阿佐緒が保田を去る。

世界恐慌・ 1929=48歳：「自然科学概論」。東京に転居。以後3年、「岩波講座物理学及び化学」の編集と執筆。

満州事変・ 1931=50歳：\_岩波が雑誌(科学)を創刊、その編集主任となる。

五一五事件・ 1932=51歳：\_岩波「西洋人名辞典」の編集と執筆。

芥川直木賞始1935=54歳：「現代物理学」。\_岩波「理化学辞典」の編集と執筆。

二二六事件・ 1936=55歳：新潮社日本少国民文庫「世界の謎」。

日中戦争始・ 1937=56歳：「短歌文学全集石原純篇」「科学と社会文化」。日本少国民文庫「人間はどれだけのことをして来たか(二)」。

健保+総動員 1938=57歳：「自然科学的世界像」「科学と思想」。

第二次大戦始1939=58歳：「科学教育論」。アインシュタイン-インフェルトの翻訳\_岩波新書「物理学はいかに創られたか(上)」。

大政翼賛会・ 1940=59歳：「物理学はいかに創られたか(下)」。

日米開戦・ 1941=60歳：「科学のために」「理論物理学」。新潮社新日本少年少女文庫「私達の日常科学」。アルス新日本児童文庫「地球

の生ひ立ち」。保田に戻る。\_戦時科学振興政策を批判して執筆制限されるも、現代物理学の普及を続け、

・ 1942=61歳：「偉い科学者」「思索の手套」。改訂日本少国民文庫「世界のなぞ」。改訂日本少国民文庫「人間はどれだけのこ

ことをして来たか」。

創価学会検挙1943=62歳：随想集「來竹桃」。中央公論国民学術選書「現代物理学の基礎理論」。新日本児童文庫「僕らの実験室」

年金+総武装 1944=63歳：「科学を志す少年のために」。

敗戦・ 1945=64歳：\*戦後再刊された(科学)の巻頭言で復興への科学者の貢献を説いた直後、交通事故で重傷を負い、

新憲法施行・ 1947=66歳：\_没した。